師範正 山口裕華 師範正 鳥飼真理 師範正 野中静波 成 家

立谷青霞

成 家 阪 井 浩 子

槌井末美

二 段 宇多村 清 泉 五 段 力岡紫烽 六 段 松 下 真 子

吉中裕子

梅谷節子

師 範 福 沢 由美子

師範正

森 沙 登

師 範

藤永琇雲

師範正

宮本虹鶴

師範正

秀 月

準三段 井 口 美代子

五 段 新竹麗月

準六段 佐藤銀川

師 松永里美

師 田嶋春湖

範 徳 永 直 恵

師範正

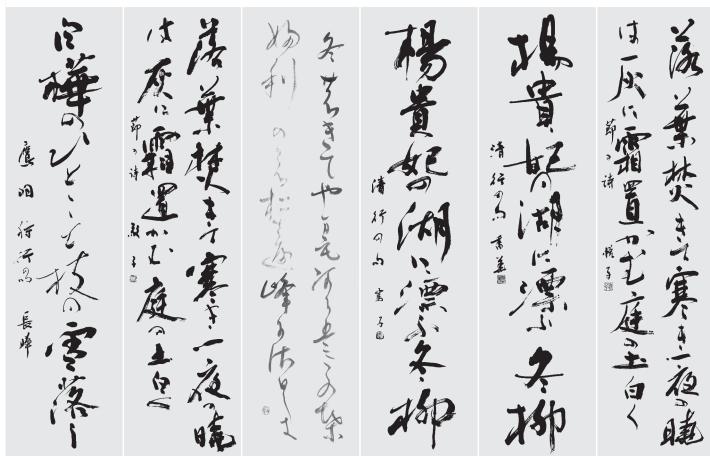
登 本 花 徑

師範正

藤元山翠

吅 幅 随 作





準六段 丸山長曄

師 鎌田敬子

師 範 江 上 由紀子

師 楢橋篤子 三好香華

師範正 松山悦子



師範正 佐田 馨春



成 家 伊良子 喜 代



成家石橋芝水



準師範 久 保 暁 星



師 範 久 保 菜 雨



師範正 藤 永 溪 泉

白い馬

白川馬

小 4. 準三段 里 りんか

友がち

小3.準三段 田 中 きせき

友がたり

小3.4級 嶋 村 美 友

マンモス

小2.準3級 舟 森 よしの



小2.準2級 小1.7級 山 崎 結 月 しの村かんな

小 4 . 準四段 藤 井 夏 希

挑戦者

中1. 準特待生 中3. 準特待生 山 本 美衣奈 井 脇 遙 風

1000 亚

中 3 . 特待生 前 田 乃 亜

感謝の心

小6.六段 上 野 心 愛

感謝の光

小 6 . 準四段 原 田 麻 央

布望の光

成 家 深町 鳳月 成 家 細 田 青 秀 師範正 師範正 石橋芝水 川上和子 楳 澤 美 奈 村 石 節 子 師範正 師範正 久 保 菜 雨 髙 田 新 翠 田中 武田桐生 葵 小川玉燁 田尻白華 福 田 喜久恵 六 段 松 下 真 子 六 段 原 田 清 雪 準師範 準師範 大橋春光 平野裕美 橋爪恵美 鎌田敬子 福島玖雪 準四段 準五段 畑地 和田青陽 小 林 智 子 時 本 美 芳 環 吉永洲香 鈴木華鈴 久藤蓬生 坂本鮎美 川副雅子 河野凪紗 庄司悦子 大貝昭代 三島文江 小野恵風 準8級 準6級 準4級 準3級 松本雅和 髙 倉 紀美子 荒木 藤井佳恵 川 上 千枝子 吉 浦 澄 江 吉之元 萌 衣 徹

29

半紙随意優秀作品(12月28日締切分)





師範正 村内神子



師範正 椎野北斗



師範正 内 梨 櫻 舟



師範正 川久保由香里



成 家 松 原 華 月



成 家 茶 **圓 光 曄**



準師範 竹 清 成 翠



師 範 檀 上 茂 子



師 範 田 口 澄 江



師 範 **楢 橋 篤 子**



師 範 田 原 綾 泉



師 範 三 好 香 華



師 範豊 嶋 祥波



四 段 谷 口 丈 美



四 段 野 田 春 晃



準五段 奥 村 直 美



五 段 新 **竹 優 子**



準六段 **落 合 梢 薫**



六 段 田 中 **久 美**



六 段 **住田紫苑**



準二段 北 崎 友 喜



準三段 白 濱 かずみ



準三段 柴田玉楊



準三段 坂 本 孝 子



三段 飯塚安会子



準四段 海江田 康 枝



準四段 別 府 美惠子



2 級 山口千代美



準1級 **沖 明子**



準1級 **梶 千春**



準1級 田代千代



初 段 岸 本 恭 子



初 段 小澤 真理子



準二段 菅原清華



準8級 山 野 由 佳



6 級 金子 シズエ



4 級 田 所 和 子



準3級 道 下 凜 花



3 級 瀬 尾 美代子



準 2 級 重 井 真由子



準2級 宮 澤 美 成



鈴木輝善

今 井 厚 美

安真由

夏月

準5級

生 野 惠 代

佐 藤 清 子

竹内加代

大ツ

準6級 仲 西 秀 徳 ナマスソ

6 級 増 田 満 友 そで

準 5 級 しのざきゆうと なま

準8級 おざきこはる なまでもまっとかって

準7級 **友 松** りかこ かま

6 級 柳川寧音 きなま

4 級 渡 辺 斗 愛

ち友だ

準3級 **澁 田 晄 里** 5友 えだ

3 級 大熊夕花 ち友業だ

2 級宮崎芽生

ち友だ

準1級 **岡 陸 斗** チマ

8 級 上 村 ら な きて

8 級 渡 辺 舞 結 モマスソ

7 級 **常 松 ら ん**

中谷悠羽

準初段 中 谷 悠 羽 白馬

初段 家頭佳榮 大台選馬

準四段 大橋遥夏 ちただ

準7級 吉永 眞太朗 ち友だだ

6 級 **道 脇** のぞみ ち友だ

4 級 廣田果歩 5友だ

準3級 岡 本 みなみ

其事馬

準 4 級 松 本 美菜子 息馬

3 級 石橋希愛 四年宮原養心

準2級 宮 原 蒼 心 白馬

2 級 鎌田 **藍** 四年高木陽依

2 級 高 木 陽 依 自馬

準1級 中 嶋 **隼之介** 自馬

1 級 黒岩り子

市望

準三段 山 田 三 咲 五年一瀬奈

三 段 一ノ瀬 奈 々 小五佐藤あいり

準四段 佐 藤 あいり 希望

準三段 倉 吉 ひかり 五年 十月

六 段 **辻 本 千 夏** 白馬

7 級 永島俊樹 自馬

準5級 永末みゆ

京息計

特待生 中 川 夢 理 革和出生

準2級 堀 **瑠奈** 布堂

2 級 山口琴葉 希望

1 級 桑 本 彩 夏 たおり

準初段 杉 田 瑠 香 小五西野望来 生

初段 西野望来 酒井日菜子

準二段 酒 井 日菜子



池之上

30

がす

保みあ

れちゃ

田坂柚佳

準6級

ました

藤田寛人

舟 森 よしの

よし

準5級 杉 延 ゆうし

ゆう

かれちゃ

るのがす

城山桜彩

岡﨑琳音

松本雪希

進三段

準5級

友 松 りかこ

級

かわづ は な

歌を作るの

福谷夏菜

硬 筆 優 秀 作 品 (12月28日締切分)

	健 単 慢	秀 作 片	品 (12月28日	日締切分)	
生きていくうえでのちまして表したものをことわざといけます。	をことわざといいます。 でことわざといいます。	生きていくうえでのち 言い回して表したもの 言い回して表したもの	生きていくうえでのちまいといいます。	生きていくうえでのちまい回して表したもの言い回して表したもの	三年 ぶ坂本外作真をごとわざといいます。 とうとわざといいます。
進3級 3級 廣田果歩 櫻木 翠	準2級 大 坪 健 翔	2 級 宮 﨑 芽 生	準1級 吉 泉 光 琉	1 級 工 藤 絵梨夏	準初段 坂 本 斗佑真
大陽の光が夏に向かって強くなり大きな葉のブラ強くなり大きな葉のブラ強くなり大きな葉のブラ強くなり大きな葉のブラカナスの木の下がとてもよい日かげになるのだ。よい日かげになるのだ。	太陽の光が夏に向かって強くなり大きな葉のブラない日かげになるのだ。	生きていくうえでのちまい回して表したものをことわざといいます。	生さていくうえでのちまい回して表したものをことわざといます。	生きていくうえでのちまい回して表したもの	生さて、くつえでのち をことわざといいます。 をことわざといいます。
初 段	三段 白幡 朱莉	準7級 大渡彩惠	7 級 志村紅羽	準5級 下 村 芽 姫	5 級 山 崎 心 晴
大陽の光が夏に向かって 強くなり大きな葉のプラ 強くなり大きな葉のプラ 大陽の光が夏に向かって はい日かげになるのだ。 大陽の光が夏に向かって 大陽の光が夏に向かって 大陽の光が夏に向かって 大い日かげになるのだ。	太陽の光が夏に向かって 対くなり大きな葉のブラ 強くなり大きな葉のブラ 強い日かげになるのだ。	よい日かげになるのだ。 強くなり大きな葉のプラ 強くなり大きな葉のプラ 強くなり大きな葉のプラ	太陽の光が夏に向かって ない日かけになるのだ。 強くなり大きな葉のプラ 強くなり大きな葉のプラ	太陽の光が夏に向かって ない日かけになるのだ。 ない大きな葉のブラ ないがでも	☆ はい日かげになるのだよい日かげになるのだがとてもよい日かげになるのだ。
3 級 2 級 北御門 まい 石 飛 奏 介	準1級 藤 田 尚 汰	準1級 伊 藤 悠 月	1 級 丹 生 日 向	準初段 日 高 心 優	準初段 稲 永 煌 太
戦争がはげしくなるにつれて (を料が不足し、食事は朝とは 人の二回だけになった。それも、 米がほんの少ししか入っていない。うすいおかゆである。 によれるの少ししか入っていまかはでし、食事は朝とばんの二回だけになった。それも、 米がほんの少ししか入っていまかはである。 にはんの少ししか入っていまかはである。 になった。それも、 米がほんの少ししか入っていまかけである。 になった。それも、 米がほんの少ししか入っていまかけてある。	本場の光が夏に向かって 大い日かげになるのだ。 とい日かげになるのだ。	大陽の光が夏に向かって をい日かげになるのだ。 よい日かげになるのだ。	太陽の光が夏に向かって 強くなり、大きな葉のプラ 強くなり、大きな葉のプラ	太陽の光が夏に向かって ない日かげになるのだ。	☆くなり大きな葉のプラ 対ナスの木の下がとてもよい日かげになるのだ。 よい日かげになるのだ。
準四段连部 瑠 華 藤 田 晴 也	8 級中桐 結	7 級 妹川杏実	準 5 級 毛 利 顕 惺	準4級 大 谷 ゆきな	3 級 並 木 理 紗
大い、うすいおかゆである。 米がほんの少ししか入っていない、うすいおかゆである。 一覧料が不足し、食事は朝とは 大の二回だけになった。それも、 米がほんの少ししか入ってい 食料が不足し、食事は朝とは 人の二回だけになった。それも、 米がほんの少ししかろってい ない、うすいおかゆである。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	食料が不足し、食事は朝とば を料が不足し、食事は朝とば がほんの少ししか入ってい 米がほんの少ししか入ってい がいうすいおかゆである。	戦争がはけしくなるにつれて というすいおかゆである。 はいうすいおかゆである。 この井高音	ないうすいおかゆである。 ないうすいおかゆである。 大がほんのかししか入ってい 大がほんのかししか入ってい ないうすいおかゆである。	はいうすいおかゆである. ないうすいおかゆである. ないうすいおかゆである. 	はいうすいおかゆである。 ないうすいおかゆである。 ないうすいおかゆである。 単争がはげしくなるにつれて 戦争がはげしくなるにつれて
1 級 準初段 桑本彩夏 山田陽菜	初 段 山 﨑 奏 音	準二段 向 井 嘉 音	二 段 脇 坂 里 奈	準三段 栗崎 大輝	三 段 野 田 桜 子
いろんな相手といろんな場所でいくうちに話し方や断り方でドバイスのしかた要求のしかたが得意になっていくのです。	いろんな相手といろんな場所でいる人な相手といろんな要求のしかた。 ドバイスのしかた要求のしかたが得意になっていくのです。	いろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいて、ちい、話し方や断りなアドバイスのしかた、要求のしかたが、得意になっていくのです。	いろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいくうちに、話し方や断り方でドバイスのしかた要求のしかたが得意になっていくのです。	戦争がはげしくなるにつれて 大の二回だけになった。それも、 米がほんの少ししか入ってい ない、うすいおかゆである。	を料が不足し食事は朝とばない、うすいおかゆである。 **がほんの少ししか入っていない、うすいおかゆである。
準四段 四段 青田夏緒 松下知央	準五段 岩 川 歩 愛	五 段 好 井 彩 和	準六段 藤 﨑 涼 菜	準3級 山 崎 葉 月	準1級 濵 葵 衣

硬 筆 優 秀 作 品 (12月28日締切分)

			健 単 慢	秀 作 占	品 (12月28日	締切分)	
	白い物体は太陽光のほとんどを反射する、海が真っ白な流水で覆われると、太陽熱は反射されてしまい流水もと、大陽熱は反射されてしまいだから水野の気温も上がらない。	いろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいくうちに、話し方や断り方、アバイスのしかた、要求のしかた。	いろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいるのです。 『『意になっていくのです。』『動物のしかた	ではっていくのです。 が得意になっていくのです。 が得意になっていくのです。 が得意になっていくのです。	いろんな相手といろんな場所で 何度もコミニケーションして いくうちに話し方や断り方ア ドバイスのしかた要求のみた が得意になっていくのです。	いろんな相手といろんが場所でいろんな相手といろんが場所でいくうちに話し方や断り方でが付着になっていくのです。	いろんな相手といろんな場所でいろんな相手といろんな場所でいくうちに話し方や断り方でがイスのしかた。要求のしかたが得意になっていくのです。
	特待生 谷 口 理 奈	準2級 佐 藤 花 咲	2 級 菊池明璃	準二段 櫻 井 尊 仁	準三段 松 下 昊 惺	三 段 大 山 栞	三 段 中 島 菜 奈
	白い物体は太陽光のほとんどを反付い物体は太陽光のほとんどを反射する。海が真。白な流氷で覆われると太陽熱は反射されてしまい、流氷もその下の海水も温まらない。	日い物体は太陽光のほとんどを及射する、海が真っ日で流水で覆われてしまい、流水もその下の海水も温まらない。 だから水野の気温も上がらない。	白い物体は太陽光のほとんどを反 射する、海が真っ日か流氷で覆われると太陽熱は反射されてよい。 流氷もその下の海水も温すらない。 だから氷野の気温も上がらない。	村 まる、海が真っ白な流水で覆われると太陽熱は反射されてよい、 流水もその下の海水も温まらない。 だから氷野の気温も上がらない。	白い物体は太陽光のほとんどを反射する、海が真っ白な流水で覆われてしまい、流水もその下の海水も温まらないだから水野の気温も上がらない。	日い物体は大陽光のほとんどを反射する。海が真っ日な流氷で覆わない、 流氷もその下の海水も湿まらない。 だから氷野の気温も上がらない。 にから水野の気温も上がらない。	日い物体は太陽光のほとんとを反白い物体は太陽熱は反射されてまい、流水もその下の海水も温まらない。だから水野の反温も上からない。
	四段 田村美侍	五 段 阿久津ほのか	準六段 白 濱 さくら	六 段 原 井 那 羽	準特待生 高橋 実 瞳	準特待生 小 山 心 優	特待生 五反田 桜 花
	白い物体は太陽光のほとんどを反白い物体は太陽光のほとんどを反射する海が真つ白な流水で覆われると太陽熱は反射されてしまい、流水もその下の海水も温まらない。	白い物体は太陽光のほとんどを反射する、海が直つ白な流水で覆われると太陽熱は反射されてしまい、だから水野の気温も上からない。	白い物体は太陽光のほとんどを反射する、海が真っ白な流水で覆りれると、太陽熱は反射されてしまい流泳もその下の海水も温まらない。	村する。海が真っ白な流水で覆われると太陽熱は反射されてしまい。 流水もその下の海水も温まらない。 だから水野の気温も上がらない。	白い物体は太陽光のほとんどを反白い物体は太陽光のほとんどを反対する、海が真っ日な流水で覆われると、太陽熱は反射されてよい、だから、氷野の気温も上がらない。	射する海が真っ白な流水で覆われると太陽熱は反射されてしまい、 流水もその下の海水も温まらない。 だから水野の気温も上がらない。	日い物体は太陽光のほとんどを反対なら水もその下の海水も温まらない。 だから水野の気温も上がらない。
	4 級 高 橋 優 花	3 級 梅 木 遥 花	準2級 松 村 柑 奈	準三段 福 谷 夏 菜	三 段 田 中 孝 生	準四段 田 﨑 愛 菜	準四段 吉 岡 柊
	けん 成本のはこのがのでは対します。中では近れのかにて、東北ンバー・まで、大方では一までは対して、東北ンバー・までは近れのかにて、東北ンバー・までは近れのかにて、東北ンバー・までは近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにて、東北ンバー・まで、東京には近れのかにで、東京には近れのかにで、東京には近れのかにでは近いのでは、東京には近いのでは、東京には近いのでは、東京には近いのでは、東京には、東京には、東京には、東京には、東京には、東京には、東京には、東京に	は多彩なアプリでを招きする なっなに現代人の時間は最やされ でする。電子の猛技に扱行し がってある。電子の猛技に扱行し でものななに残行し	なく、 なすである。電子の経及に依がたじ なすである。電子の経及に依がたじ ながすである。電子の経及に依がたじ ながながれます。 これに現代人の時間に費やされ ないながれます。	本では多利なアナリで手招きする。 できに多利なアナリで手招きする。 できに多利なアナリで手招きする。 なるがは現代成がに なるの経政に成がに なるの経政に成がに	本では、多彩なアプリで手握きするでは、多彩なアプリで手握きする人では、一点の中で読書週間が始まる。 こう はい かい はっぱん の時間は費やされるでは、多彩なアプリで手握きする	は、	は字様れが言われて入しこりやけば字様れが言われて入しいとりやけば字様れが言われて入しいとりやけば字様がたじがろである。電子の経及に紙がたじがろである。電子の経及に紙がたじがるであれば言われて入しことりやけ
	準四段 松 下 真 子	四 段 川 鍋 敬 子	五 段 各 務 和 子	準師範 髙田新翠	師 範 松 永 美惠子	師範正津村 桂扇	師範正 中村浩子
	は字離れが言われてとしいりわけ がちである。電子の猛攻:鉄がたじ スマホに現代人の時间は費やされ である。電子の猛攻:鉄がたじ	はないます。 ないに、現代人の時間は費やされ がちである。電子の経攻に低がた! がちである。電子の経攻に低がた! を構図の中で読書週間が始する。	本学は多れなアフリア手程をするでは多れなアフリア手程をする。電子の程政に級がたじるがある。電子の程政に級がたじるである。 これ カス 真子	神像 歌木の優に客談の管様にはますます。 で演家のことが写いている 先奏の まかい あんまがで ある 単か を寄りる 歌ーませて りたまいて あんまがて ある 単いた まっている まんから はいた ちょう しょう まんりょうかい かんまいて あんかい かんしょう おんかしょう しょう まんりょうかん かんしょう おんかしょう まんりょう かんかん かんかん かんかん かん かんかん かんかん かんかん かんかん	「なです」を表していまった。 なです」を表していまれば、 なです」ですの経験はなったしまっては、現代人の時間は費やされなっていまっていまっています。	なてある。電子の猛攻、然がたじ がちてある。電子の猛攻、然がたじ がちてある。電子の猛攻、然がたじ がちてある。電子の猛攻、然がたじ	対応 歳まのは、こ気はの皆様にはまでまる。 「は寝るのことのはありました。」 「よ」、のたびは「一重な火の最高のを頂戴」」といて、ままいったでは「一重な火の最後のとした。」 「ま」、「城にみんがと」、「かいま」だって、ままいる。で、ないまです。 は、」といて、ままでもれのが、家すりには、魚」といて、ままいれる。」といて、ままいれる。」
	2 級 山田明美	準1級 谷 本 佳 乃	初 段 力 久 真 子	準二段 田 中 佑 季	二 段 三 浦 かすみ	準三段 白 濱 かずみ	三 段 永 田 康 子
	はちである。電子の猫攻に紙がたいなく 大マホに現代人の時間は費やされないがちである。電子の猫攻に紙がたい 大マホに現代人の時間は費やされる。	に、一点の なった、で、で、で、いまないで、 なって、に、現代人の時間に費やされ がってあり、で、その話なに然かた。 なく構用の中で、読書、週間が始まる。	なくは、多彩かアフリで手招きするがなてあり、電子の猛攻に低がない。 からてあり、電子の猛攻に低がない。 なっては、現代人の暗関は費やされば、現代人の暗関は費やされば、のいいでは、あれが言わりて又し、とりわけば、	は かんかいて を 手った はいましま でまった こうだい こうだい こう こうじゅん かいて あまっき できる かっかい こうじゅん いっかい こうじゅん いっかい こうじゅん かいてん まっかい こうしゅんかいてん まっかい こうしゅん かいてん かんじょう しょうしゅん かいしゅう しょうしゅん しょう しょうしゅん しょうしゃん しょう しょく しょう しょく	は字は多彩でデリで手招きするがちてある。電子の猛双に然がたじるがってある。電子の猛双に然がたじなくながない。	本では多れなアフリでチ指すするなく構図の中で読書週間が始する。でない現代人の時间は費やされなですの経験に成がたじばを確かに現れたの時間は費やされるというないでは、	ボラマホバ現代人の時間に繋やされがちてある。電子の猛攻に低がたじ かちてある。電子の猛攻に低がたじ がちてある。電子の猛攻に低がたじ がちである。電子の猛攻に低がたじ
5	準8級 坂 田 加代子	8 級 原口祐依	準 6 級 田 嶋 舞子	6 級 佐藤銀川	準5級 林 栄子	3 級 有 本 百合子	準2級 田 代 聡 子